

## 小平市 ごみ・資源に関するアンケート調査 結果概要

## 1 アンケート調査の概要

## 1) 調査目的

小平市民のごみ・資源の処理方法、ごみ減量についての日頃の取り組み、ごみ減量・処理事業に対する考え方などを把握することにより、一般廃棄物処理基本計画中間見直しのための基礎資料を得ることである。

## 2) 調査概要

調査対象	小平市内の 2,000 世帯（抽出方法は、住民基本台帳に基づき、平成 28 年 4 月 1 日現在で満 18 歳以上の人から無作為抽出した。）
調査方法	郵送配付及び郵送回収によるアンケート調査
調査期間	平成 28 年 11 月 11 日に調査票を発送した。回収期限は 11 月 28 日としたが、12 月 7 日到着分までを集計対象とした。
回収状況	発送した 2,000 票のうち、862 票を回収した。宛先不明や転出等で返送された 13 票を除く 1,987 票に対し、有効回収率は 43.4%である。

## 2 アンケート調査結果の概要

## ➤ 回答者の属性

- 年代別に見ると、「60 代以上」が 41.3%、「50 代」が 16.6%であり、50 代以上の方で、回答数全体の過半数を占めている。国勢調査の結果と比較しても、50 代以上の方が多く、40 代以下が少ないという結果である。

## ➤ 満足度

- 「ごみの収集」「住んでいる地域の清潔さ」で「満足している」「どちらかといえば満足している」が合計で 80%を超えるが、「ごみの減量や処理の情報公開・提供」「ごみの減量や処理への小平市の取り組み」は「わからない」が 30%を超える。

## ➤ ごみ・資源の分別・出し方について調べる方法

- （回答の多い順から、）冊子「私のまちのごみと資源の出し方」、冊子「分別をよりわかりやすく」、「市のホームページ」、「自治会やマンションの掲示板」などである。

## ➤ 冊子「私のまちのごみと資源の出し方」の利用状況

- 「利用している」「利用したことがある」が合計で 80%を超える。

## ➤ 実践している発生抑制

- 「詰め替え商品を買う」は 86.8%とほとんどの方が実践しており、「食べ残しはなるべく出さない」、「不要な包装は断る」は 55%を超える。
- 「特に実践していることはない」は 1.2%である。

➤ **実践している再使用**

- 「リサイクルショップを利用する」「古本店を利用する」は35%を超える。
- 「特にない」が19%と発生抑制に比較して多い。

➤ **生ごみの水切り**

- 「行っている」が88.2%で、「行っていない」(10.6%)を大きく上回っている。

➤ **生ごみの自家処理やリサイクル**

- 「行っている」が9.2%で、「行ったことはない」(84.5%)を大きく下回っている。
- 方法は、(回答の多い順から)「庭や畑に埋めている」(46.7%)、「生ごみ処理機を使っている」(28.9%)などである。
- 行っていない理由は、(回答の多い順から)「堆肥を作っても使い道がない」(29.3%)、「虫や臭いが発生すると思う」(28.9%)、「集合住宅だから」(27.4%)などである。

➤ **食品ロス**

- 出すことのある食品ロスは、「食べ残し」が43.5%で多く、「手つかず食品」が21.5%、「過剰除去」が17.6%などの順である。「ほとんど食品ロスを出さない」も40.0%と多い。
- 出さないために行っていることは、(回答の多い順から)「賞味期限・消費期限の近い食品を早めに使う」(65.1%)、「食品は必要な分だけ買う」(61.7%)、「食材を無駄なく使う」(59.5%)などである。選択肢以外では、「余ったものは冷凍保存する」という回答が比較的多い。

➤ **プラスチック容器の分別収集**

- 認知は、「よく知っている」が56.0%で多く、「何となく知っていた」が34.1%、「知らなかった」が8.8%である。
- 分かりやすさは、「分かりやすい」が61.0%と、「分かりにくい」(35.1%)を上回っている。
- 『現状の「プラスチック容器」の分別収集で十分である』が46.3%で、「やわらかいものもプラスチック容器として分別収集すべきである」(27.1%)を上回っている。

➤ **処分方法**

- 「新聞・折込広告」は「市の資源収集」より、「販売店の回収など(新聞販売店などの新聞回収など)」が多い。
- その他の資源収集品目「ペットボトル」「色付きトレイ」「雑誌」「雑がみ」「ビールビン」「その他のビン」「カン」は「市の資源収集」が多い。
- 「白色トレイ」「紙パック」は「スーパー店頭の回収ボックス」が多い。
- 「生ごみ」「自宅で切った枝木」は「市のごみ収集」が多い。
- 「小型家電製品」は「市のごみ収集」が多い。選択肢以外では、「家電店」という回答が比較的多い。

➤ **家庭ごみの有料化**

- 賛否は、「賛成である」「ごみ減量の効果があれば、導入はやむを得ない」の合計が44.8%で、「反対である」「ごみ減量の効果があっても、導入には抵抗がある」の合計42.8%

を若干上回っている。「どちらともいえない」は9.4%である。

- 有料化を導入する際の対策は、「有料化手数料（指定ごみ袋の料金）収入の使い道を明らかにする」が最も多い。
- 有料化に伴う、市民の方のごみの減量・リサイクルに対する取り組みの変化は、「より一層積極的に取り組むようになると思う」が52.6%で、「特に変わらないと思う」が29.0%、「どちらともいえない」が16.9%である。取り組み内容は、「ごみと資源の分別を徹底する」が最も多い。

➤ **戸別収集**

- 賛否は、「賛成」が24.5%、「反対」が24.3%でほぼ同数であり、「どちらともいえない」が46.9%で最も多い。
- 普段ごみを出している場所は、「道路や空き地などの集積所」が56.8%で多く、集積所の問題は、「カラスや猫による被害がある」が最も多く、選択肢以外では、「地域外の人、通行人で捨てる人がいる」という回答が比較的多い。
- 戸別収集を導入した場合に生じるとされる課題は、「作業員の手間が増えるなどにより、収集時間が遅れたり不規則になる」という回答が最も多い。